

～一人ひとりを大切に～

戸田ゆき子の ニューズレター



2008.7.20. No.2

発行 戸田ゆき子とともに市政を考える会
〒284-0001 四街道市大日160-27
E-mail yukiko7toda@yahoo.co.jp

TEL & FAX 043-421-3541
郵便振替 00140-0-484033

6月議会報告 6月2日～23日

あらららら!?

後期高齢者医療制度に関する 意見書が2通も国へ...

後期高齢者医療制度の「廃止」を求める意見書は3月議会で否決されましたが、6月議会に請願が再提出され、今度は賛成多数で採択されました。

ところが同時に制度の「見直し」の意見書が提案され、こちらが賛成多数で採択。四街道市議会は、「廃止」と「見直し」の2通の意見書を国へ提出することになりました。

- ① 発議案第6号「制度の撤回・廃止」：提出者・野村裕議員（共産党） 11対10（一人棄権・同数のため議長採決・私は賛成）
- ② 発議案第7号「制度の見直し」：提出者・広瀬義積議員（民主党） 13対8（私は反対）

国会では、民主党など野党4党は

この制度にはつきりと「廃止」

民主党など野党4党は「制度の廃止」と主張して参議院では法案が可決したこの時に、なぜ、四街道の民主党は廃止ではなく、見直しの意見書を提出するのか、理解に苦しみます。私は、第7号の提出者である民主党議員へ「見直し」には、「廃止」も含まれるのか」など質疑をしましたが「案

文からくみ取ってほしい」と繰り返すばかりで明確な答はいただけませんでした。

私は、この制度は一部の見直しではなく完全に廃止し、今までの国民皆保険制度を持続可能な制度に早急に改めるべきと考えておりますので、発議案7号には反対しました。



発議案第7号に対する私の反対討論の要旨

この制度は、75歳以上の高齢者と75歳未満だが1～3級の障害を持っている人という医療費のかかる方たちだけを集めて『後期』という括りのなかで区別し、やりくりをしようとしている。

高齢者や障害を持った方々を区別し、生きていくことに負い目を感じる制度や社会をつくることは子どもたちに思いやりの気持ちを育てるところか、逆に人の尊厳を無視し、区別していいんだ、差別してもいいんだという気持ち植えつけてしまう。重大な人権問題であり、強い憤りを覚える。

今すべきことは、後期高齢者医療制度を一部の見直しではなく完全に廃止し、お互い様とたすけあってきたこれまでの制度、国民皆保険制度を持続可能な制度に早急に改めることではないかと考える。

一般質問より

ヘルパーさんの労働条件の改善を！

新聞報道によると、7月14日に厚生労働省所管の財団法人「介護労働安定センター」が発表した2007年度の介護労働実態調査では、07年度の介護職員の離職率が21・6%と前年度より1・3ポイント上昇。全産業平均(16・2%)を5・4ポイント上回ったとの事。

その平均月収は17万9千円。約半数の人が、「仕事内容のわりに賃金が低い」との不満を抱いているという。

介護という「人」に拘わる仕事に意欲や思いを持って就職した人たちが、将来の夢を描けない労働条件を早急に改善すべきです。

市として、国・県などに対し、この厳しい実態を強く訴えてほしいと要望しました。

一般質問より

市民参加？？？？？

事柄によって、姿勢が違う市長さん。

私の2つの質問に対する答弁で、市民参加へのスタンスの違いが見えた。

(問) 今年、四街道市が「核兵器廃絶平和都市宣言」をして25周年です。市主催の記念平和事業を実施する考えは。

(答弁) 市民が主体的にやって欲しい。市は後援する。

(問) 千代田保育所父母の会の集めた市民の署名8994名。議会も請願を採択。指定管理者制度導入の白紙撤回は市民の声である。白紙撤回すべきでは。

(答弁) 請願採択を重く受け止めるが、白紙撤回せず第三者をいれてテーブルを設け協議したい。

…市民の声を無視。

一貫性に欠ける市民参加

高橋市長は、8年前の市長就任以来、「市民参加・情報公開・説明責任」の3原則を市政運営の柱としてかかげ、事ある毎に語ってきました。が、その市民参加は一貫性に欠け、事柄によって使い分けられているようです。

中止となった

(仮)地域交流センター建設計画は、ほとんどの市民が

その計画を知らなかった。知らされていないかった…。

先般の(仮)地域交流センター建設計画では、一部の特定の市民の意見を聞いて事業をすすめ、多くの一般市民への説明責任を果たしていませんでした。こんな重要な市の事業をほとんどの市民に知らせずに推進するという信じられない計画であったということは、住民投票での反対25,384票、賛成7,982票という結果が物語っています。

市民の声を続ける市長
市無視

市は、千代田保育所の指定管理者導入、まずは白紙撤回を！

白紙撤回を求める市民の署名および議会での請願採択という経緯からすると、まずは、市が導入の白紙撤回をして、その上で改めて市民「父母の会」と協議するのが順序ではありませんか。

協議の内容如何に拘わらず、まず導入ありきでは、強引に市長の導入論を押しつけられるだけ。多くの市民や市議会も白紙撤回と言っているのに父母の会が話し合い

のテーブルにつけるはずはありません！

テーブルにつかないとする父母の会を悪者にするような進め方は、子どもの人権を軽んじた市民無視の行政手段であり、断じて許すべきではありません。

保育行政の責任放棄

父母の会がなぜ白紙撤回を求めるのか。それは、市内に2ヶ所しかない公立保育所に指定管理者制度を導入することで、「公」として四街道市の保育行政の質を維持し、向上させるといふ行政の責任を放棄しようとしているからです。「子どもの育ちの場」に、子どもたちの心の安定より、経済効率を優先させる手法は馴染みません。

★本市には公立2ヶ所、私立4ヶ所の保育所がある。既存の私立保育所は営利を目的としない社会福祉法人などに限定されているが、指定管理者制度では、経費削減が目的、5年ごとに業者を見直す、営利目的の企業の参入が認められるなど、子どもたちへのメリットが最優先されない。野田市では、公立保育所12ヶ所のうち、3ヶ所に指定管理者制度を導入。

この他の一般質問

- *精神障害者の福祉的就労の場の確保を
- *災害時における要援護者、特に薬を必要とする人への特段の配慮を
- *本市の図書館整備構想について

あんな話・こんな話

7月1日付けで保育所の担当課長が異動になった。なぜ、今？本市の健康福祉部は、4月の異動で6課中、5課の課長が代わったばかり。健康福祉部は後期高齢者医療制度の導入、高齢者保健福祉計画・介護保険計画・障害福祉計画の見直し、新しい保育所、学童など、市民生活に密着した仕事をいっっぱい抱えている。唯一、4月1日付けで現職に留まった課長が7月1日付けで異動という異常事態だ。なぜ、今？千代田保育所の指定管理者導入が進まないから？？？福祉の根幹を担う同部の幹部を総入れ替えするという不可思議な人事政策に、市民サービス軽視の姿勢がちらつきとても不安です。

戸田ゆき子とおしゃべりサロン

2008年8月24日(日)13:30~16:00
四街道市文化センター201号室 無料

議会のこと、介護のこと、子どものことなんでも、おしゃべりしましょう。



問い合わせ 421-3541
e-mail yukiko7toda@yahoo.co.jp